

講義要綱

Syllabus

2024

27 期生 3 年次

長崎県央看護学校 看護師 2 年課程

はじめに

講義要綱(シラバス)とは、授業に関する基本的な情報をまとめた「授業概要の説明書」です。各年度のはじめに学生 みなさんに配布し、学習を進める際の手がかりとして活用されるよう編集されています。科目概要と到達目標、授業方法・授業計画に始まり、教科書や参考文献など、より理解を深めるための学習ができるように工夫されています。

また、成績評価の方法や履修上の留意点など、学習の評価と直結する内容も盛り込まれています。授業に出席する前には、各科目のシラバスを必ず読み込んで当日に備えるようにしてください。

それぞれの授業科目には、その科目の学修に必要と考えられる時間数を基準にして「単位」が定められています。授業、予習や準備、復習や課題を達成する時間などを総合して45時間となる時、これを1単位とすることを標準としています。授業科目の単位数は授業を受けるだけでなく、予習や復習等が必要であることを前提に定められていることを銘記しておきましょう。

目次

教育理念・教育目的・教育目標P1
教育課程P2
講義要綱(シラバス)の見方P3～4
授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧	...P5～6
専門基礎分野P7～8
社会福祉P8
統合分野P9～12
看護管理P10
災害看護と国際協力P11
臨床看護の実際P12
臨地実習P13～20
母性看護学実習P14
小児看護学実習P15
成人看護学実習P16
老年看護学実習P17
精神看護学実習P18
在宅看護論実習P19
統合実習P20

教育理念

本校における看護教育は、社会の変化・情勢に対応し、保健・医療・福祉の向上を目指して社会に貢献できる看護実践者を育成することである。

この考えに基づき、人々から信頼を得られる看護の専門的な知識・技術・態度を養い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育成することを本校の責務とする。

教育の基本は、学生が主体的に学び、自己成長できるよう支援していくことである。

教育目的

看護師となるために必要な専門的知識・技術・態度を修得すると共に豊かな人間性を養い、保健・医療・福祉チームの一員として社会に貢献できる看護実践者を育成する。

教育目標

1. 生命の尊厳と人間尊重の理念に基づき、豊かな感性と調和のとれた人間性を養う。
2. 社会の変化に対応し得る基盤を養う。
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するとともに看護師の責務と独自の役割を果たすための基礎的能力を養う。
5. 看護師として自己成長できる基盤を養う。

期待される卒業生像

1. 感性豊かな人間性と専門職業人としての倫理観を持ち、生命の尊厳と個々の人間を尊重することができる。
2. あらゆる健康レベルにある対象を生活統合体として総合的にとらえ、安全な看護実践に必要な専門的知識・技術・態度が身についている。
3. 社会の変化(医療の高度化・専門化、少子高齢化、疾病構造の変化)に対応できる基盤が身についている。
4. 判断能力、応用力、創造力、問題解決能力、説明能力(指導)が身につき、科学的思考に基づいた看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、それらを調整する基盤が身についている。
6. 自己の看護観を持つ事ができる。
7. 看護への探究心を持ち自己研鑽につとめ、主体的に学習する態度が身についている。
8. 共感的態度を身につけ、調和のとれた人間関係を形成できる。

教育課程構造図

本校の教育理念である「社会に貢献できる看護実践者の育成」を目指して、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野Ⅰ」、「専門分野Ⅱ」、「統合分野」の5分野で教育課程を構築した。

基礎分野は、人間を幅広く理解し、科学的思考力を高め、感性を磨き、幅広いものの見方、考え方から判断と行動を促す内容とし、専門基礎分野及び専門分野を学ぶ土台とする。

専門基礎分野は、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」について学び、看護における観察力、判断力、人々が社会資源を活用できる為の調整する能力を学ぶ土台とする。

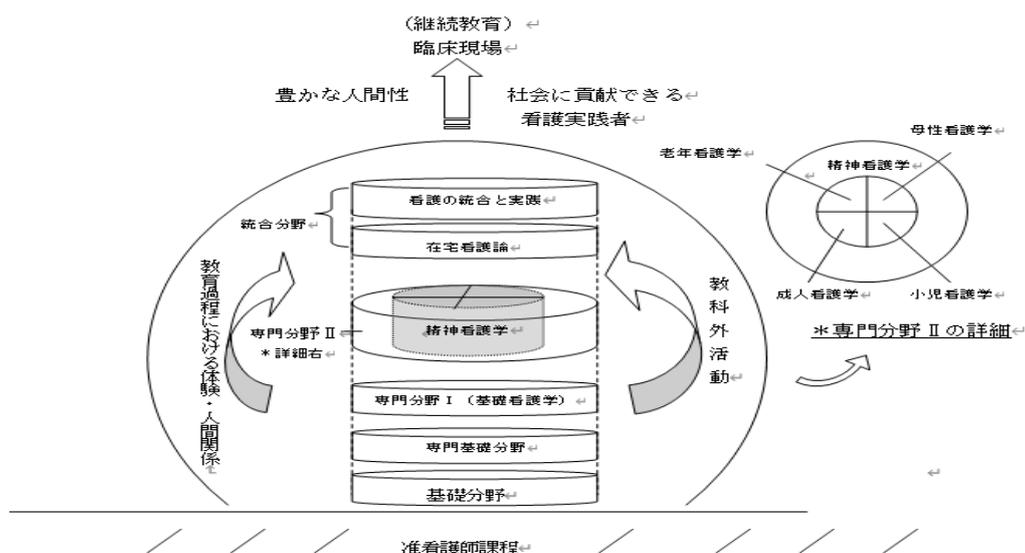
専門分野Ⅰは、基礎看護学であり、全ての看護学に通じる基礎的理論や技術を学び、専門分野Ⅱや統合分野の土台となる。

専門分野Ⅱは、「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」の5つの看護学で構成される。看護は、人間の誕生から死に至る人の一生に関わるものである。人間の成長発達、加齢に伴う変化過程であり、常に連続体である。「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」においては、成長発達に応じた各期の特徴とその健康上の課題を明らかにし、その多様なニーズや特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。「精神看護学」は、人間のあらゆる発達段階に関わり、心の健康と健康問題について学ぶ。

統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」の2科目で構成する。「在宅看護論」は、全てのライフサイクルの対象特性を踏まえ、また、専門分野Ⅰ・Ⅱで既習した知識・技術を基に、地域で生活する療養者とその家族に対する看護を学ぶ。「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した知識・技術を統合し、卒業後、臨床現場でスムーズに適応できることを目的に、臨床の実務に近い看護内容や方法を学ぶ分野とする。

また、これらの教育内容と共に、教育の過程における様々な経験、人間関係からも学びを深めていく。その積み重ねにより、豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護実践者として、常に自己成長できる基礎を養う。

本校は、2年課程であるため、准看護師課程の積み上げ教育を意識し学びを深める。



1. 講義要綱(シラバス)の見方

1) 授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧

本年度の本校で学ぶ全ての「授業科目」「単位数」「時間数」「授業科目の配当学年」「担当する講師及び担当時間」、「試験の担当講師」等について記載しています。 授業科目の担当講師の確認や試験内容、授業時間の確認などに利用して下さい。

授業科目の中には、1つの授業科目を複数の講師で担当する科目や1つの授業科目の単位認定を複数の試験で行う授業科目もあります。また、単位認定試験の受験資格も授業科目により異なるものもあります。特に「担当講師の試験組み合わせ」の項目の*マークのついている授業科目は、履修条件に注意が必要です。各授業科目の講義要綱(シラバス)と照らし合わせて、確実に確認しておきましょう。また、履修規程の「Ⅱ. 学科単位修得」の項と関連させて参照してください。

2) 各授業科目のシラバスの解説

各項目には、次の内容が、書かれています。学習を進める際の参考にしてください。

①科目名

授業科目の名称です。

②担当講師

今年度、科目を担当する講師名です。

③単位数(時間数)

授業科目の単位数と()内には、授業科目の総時間数が書かれています。
複数の担当講師の場合、各々の時間を明記しています。

④配当年次

配当年次とは、授業が行われる学年を表しています。その学年にならないとその授業科目を受けることはできません。但し、自分の年次(学年)以下で開講している授業科目については、履修することができます。

⑤科目の概要

この授業科目で学ぶ内容の概要です。当該科目の領域や社会における有用性を説明すると共に、既習内容との関係を配慮して、関連科目との体系的・構造的関係を記載しています。

⑥到達目標

受講後に期待される姿です。理解して欲しい知識や修得して欲しい技術、身につけて欲しい態度や能力などを具体的に記載しています。

⑦授業方法

講義や演習など授業の形態です。

⑧授業計画

毎回の授業テーマや授業内容が記載されています。

⑨成績評価の方法

単位認定のためにどのように成績を評価するのかを記載しています。評価の具体的な方法と配点基準です。単位認定試験や課題の提出状況、出席状況、授業態度等、評価方法は、各授業科目により異なります。

⑩履修上の注意

この授業科目を履修する上で必要となる注意事項です。

⑪一言アドバイス

学習する上での留意点や発展的に学習を進めるにあたってのポイントが記載されています。

⑫教科書

この授業科目で使用する教科書です。

⑬参考文献

学習を深める際に参考にするとよい文献です。

授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧（令和6年度 27期生旧カリ3年生用）

教育内容		授業科目		単位	時間	3年	評価区分	1試験時間	担当時間	講師名
基礎分野	人間と生活・社会の理解 科学的思考の基盤	情報科学		1	30		1試験	30	30	
		運動生理学		1	30		1試験	30	30	
		論理的思考と表現		1	15		1試験	15	15	
		哲学		1	30		1試験	30	30	
		心理科学		1	30		1試験	30	30	
		人間関係論		1	30		1試験	30	30	
		家族社会学		1	15		1試験	15	15	
		医療英語		1	30		1試験	30	30	
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学 I		1	30		1試験	30	10 4 6 10	
		形態機能学 II		1	30		1試験	30	30	
	栄養生化学	生化学	1	30		1試験*	20	20		
		栄養学	1	30		1試験*	10	10		
	疾病と治療論 I	呼吸器	1	30		1試験*	14	14		
		消化器			1試験*	16	12			
		消化器(手術療法)					4			
	疾病と治療論 II	血液造血器	1	30		1試験*	10	10		
		循環器			1試験*	20	16 4			
	疾病と治療論 III	脳神経	1	30		1試験*	16	6 10		
		運動器			1試験*	14	14			
	疾病と治療論 IV	腎・泌尿器	1	30		1試験*	14	14		
		女性生殖器			1試験*	10	8			
		乳腺			R		2			
		自己免疫			1試験*	6	6			
	疾病と治療論 V	内分泌・代謝	1	30		1試験*	12	12		
		耳鼻咽喉			1試験*	6	6			
		眼			1試験*	6	6			
		皮膚			1試験*	6	6			
	薬理学		1	30		1試験	30	30		
リハビリテーション医療		1	15		1試験	15	15			
微生物学		1	30		1試験	30	30			
	保健医療論			1	15		1試験	15	9 4	
		R				2				
	社会福祉		1	30	1	1試験	30	30	中野伸彦	
	関係法		1	15		1試験	15	15		
公衆衛生学		1	15		1試験	15	15			
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論		1	30		1試験	30	10 20	
		共通基本技術		1	45		1試験	45	10 20 15	
		日常生活援助技術		1	45		1試験	45	33 12	
		診療補助技術		1	45		1試験	45	4 3 28 10	
		臨床看護総論		1	30		1試験	30	30	
		看護研究		1	30		1試験	30	10 20	

専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	1	15		1試験	15	15			
		成人臨床看護総論	1	30		1試験	30	30			
		成人臨床看護の実際 I	循環器障害	1	30		1試験*	16	8		
			消化・吸収障害						8		
			血液・造血器障害						6		
			呼吸器障害						8		
		成人臨床看護の実際 II	内分泌・代謝障害	1	30		1試験*	16	8		
			腎機能障害						4		
			泌尿器機能障害						4		
			運動器障害						8		
	中枢神経障害		6								
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		1試験	30	30			
		老年看護援助論	1	30		1試験	30	30			
		老年期に特有な障害と看護	1	30		1試験	30	4 26			
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		1試験	30	30			
		小児臨床看護総論	1	30		1試験	30	14 13 3			
		小児臨床看護の実際	1	30		1試験	30	8 2 2 18			
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		1試験	30	30			
		周産期の正常な経過とハイリスク	1	30		1試験	30	14 16			
		周産期にある人の看護	1	30		1試験	30	10 20			
	精神看護学	精神看護学概論		30		1試験	30	30			
		精神障害の治療と看護	1	30		1試験	30	16 4 10			
		精神に障害をもつ人の生活と看護	1	30		1試験	30	14 2 14			
	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30		1試験	30	30		
在宅看護援助論			1	30		1試験	30	15 9 6			
在宅療養者の状態別看護			1	30		1試験	30	8 22			
看護の統合と実践		看護管理		1	15	1	1試験	14	10 2	* 吉田佳織	
			R				1	1	2	* 村山里栄子	
		医療安全		1	30		1試験	30	30		
			災害看護と国際協力							2	* 澤谷典子
				1	30	1	1試験	30	18 8	* 山口真由美 * 山口奈津子	
		臨床看護の実際							2	* 大宮弘司	
			1	45	1	1試験	45	2 31	* 浦美恵子 * 木下由紀子		
							10	* 渡邊令子 * 山口真由美			

※ 試験及び評定に関して、「履修規程」をよく参照すること。

※ 実務経験のある教員

※ *は、「履修規程」II. 学科単位修得【受験資格】及び【成績及び評価について】の項を参照する。

※「R」はレポート提出がある科目。詳細はシラバスで確認すること。

專門基礎分野

科目名	社会福祉	担当講師	中野 伸彦
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	3
科目の概要	本講は、社会保障制度や社会福祉制度の全体的な枠組みや各種のサービス内容および専門職員の役割等を理解することによって、医療・福祉分野におけるスタッフ間の連携や支援体制の構築をめざす。このため、現行の社会資源や援助技術の理解習得に最も力点を置くが、同時に医療・福祉分野における今後の課題や展望についても概観する。		
到達目標	1. 社会福祉の基本的な枠組みを理解する。 2. 社会保障制度の全体的な枠組みを理解する。 3. 社会資源の活用法と、医療と福祉との連携のあり方などを身につける。		
授業方法	講義		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	社会福祉の基本的枠組み	講義
	2	①福祉とは何か ②三つのH ③専門性と一般性	
	3	社会福祉の歴史	講義
	4	①歴史的課題 ②古代～近代(慈善から社会事業へ) ③近代～現代(福祉国家から福祉社会へ、施設から在宅へ)	
	5	社会福祉の定義と概念	講義
	6	①定義 ②概念 ③社会福祉と社会保障 ④公的扶助と社会保険	
	7	社会保障制度	講義
	8	①所得保障 ②医療保障 ③介護保障	
	9	社会資源	講義
	10	①法律体系 ②福祉六法 ③精神保健福祉法 ④介護保険法	
	11	⑤障害者自立支援法 ⑥関連法	
	12	援助技術 ①専門職の役割	講義
	13	②ケースワーク ③グループワーク ④コミュニティワーク	
	14	これからの医療と福祉 ①先進国に学ぶ ②医療と福祉の連携	講義
15	単位認定試験	試験	
成績評価	小レポートの課題(10%) 単位認定試験(90%)		
履修上の アドバイス	認定試験だけでなく、小レポートの課題なども評価の対象とするので、未提出とならないよう注意しておくこと。また、福祉は、単に法律や制度などの知識の修得にとどまらず、支える側の人間観や人権意識などを問い直す視点も重要なテーマとなっている。自分自身の生き方や人(患者さん)の見方などを問い直したり、考えたりする視点などとも関連づけながら講義に臨んでほしい。		
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野」 「社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度[3]」 医学書院 ※適宜、資料やプリント等を配布する		
参考文献	・厚生省の指標 臨時増刊「国民の福祉の動向」(厚生統計協会) ・厚生労働省編「厚生労働白書」(ぎょうせい)		

統合分野

科目名	看護管理	担当講師	* 吉田佳織 : 10時間 * 村山里栄子: 2時間 * 富山 ルミ : 2時間 * 圓能寺貞子 : 1時間
単位数 (時間数)	1(15)	配当年次	3
科目の概要	看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動である。看護職同士の協働、他職種との連携、看護の対象者を取り巻くあらゆる資源(人・モノ・金・情報・時間など)を有効活用する「仕組み」が看護管理である。看護管理者だけでなく、仕事に対し何らかの責任を負うすべての看護職者が学ぶべき科目である。		
到達目標	1. 看護管理の目的・目標が理解できる。 2. 看護管理の対象(人・モノ・金・情報・時間など)が理解できる。 3. 看護管理に必要な知識・技術を学ぶ。 4. 他職種との連携・協働について理解する。 5. 看護を取り巻く社会の動向から諸制度、労働環境について学ぶ。		
授業方法	講義		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	看護管理の基礎① 管理とは、看護管理部門の基本的役割	講義
	2	看護管理の基礎② 看護単位の看護管理、看護管理の課題	講義
	3	看護に関する諸制度 看護活動と保健師助産師看護師法	講義
	4	看護行政と看護活動 看護合成の組織、診療報酬体系と看護	講義
	5	看護師の労働環境・労働条件の課題と整備	講義
	6	医療安全管理の実際 医療安全管理者の役割 医療事故対策の実際 (村山)	講義
	7	人材のマネジメント キャリアとキャリア形成 (富山)	講義
	8	まとめ (圓能寺)	講義
成績評価の方法	単位認定試験 100% 課題レポートの提出(テーマは講義開始後に知らせます)		
履修上のアドバイス	F. ナイチンゲールの「看護覚え書」第3章:小管理を改めて読み返すと、マネジメントの本質を理解することができる。		
テキスト	「新体系看護学全書 看護管理 看護研究 看護制度」メヂカルフレンド社		
参考文献	適宜プリントを配布する。		

*実務経験のある教員

科目名	災害看護と国際協力	担当講師	*澤谷典子 : 2時間 *山口真由美: 18時間 *山口奈津子: 8時間 *大宮 弘司: 2時間	
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	3	
科目の概要	国際社会における保健医療福祉の実情を知り、国際看護・国際協力に関わる機関や国際看護の基本理念について理解する。また、災害による社会や地域の人々の生活・健康への影響と災害に関する社会のしくみや対応について理解し、災害各期における人々の健康や生活ニーズ、被災者の特徴に合わせた看護活動を行うための基礎を学ぶ。			
到達目標	1. 災害の特徴、サイクルについて理解することができる。 2. 災害時における看護師の役割を理解することができる。 3. 国際社会における保健医療福祉の実情を知ることができる。 4. 国際協力に関わる機関や国際看護の基本理念について理解することができる。			
授業方法	講義及び演習(グループ演習含む)			
授業計画	回数	学習内容	方法	
	災害看護			
	1	災害看護の概念、災害の定義・災害サイクル・災害の分類	講義・演習	
	2	災害医療・看護の特徴、災害の時期別にみた健康問題	講義・演習	
	3	災害看護の実際(大宮看護師)	講義・演習	
	4, 5	HUG(ハグ)	講義・演習	
	6, 7, 8	心肺蘇生(救命講習)	講義・演習	
	9	被災者特性に応じた看護、被災者と救援者に対する心のケア	講義・演習	
	10	単位認定試験		
	国際協力			
	1	国際看護とは、国際看護の基本理念	講義・演習	
	2	世界の健康問題の現状;地域格差と死因、国際看護活動の支援を必要とする対象	講義・演習	
	3	異文化理解、海外における看護活動、国内の在日外国人への看護活動	講義・演習	
	4	国際協力のしくみとそれに関わる機関	講義・演習	
	5	国際看護活動の実際 (澤谷典子)	講義	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)			
履修上のアドバイス	世界の災害関連ニュースや国際的な看護活動、国内の災害状況について事前に調べ、講義を受けるようにしましょう。課題は提出期限を守りましょう。討議は、積極的に参加して、考える力をつけましょう。			
テキスト	「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学」医学書院			
参考文献	いのちとこころを救う災害看護 学研、災害看護学 メヂカルフレンド社			

*実務経験のある教員

科目名	臨床看護の実際	担当講師	* 渡邊令子 : 31 時間 * 山口真由美 : 10 時間 * 木下由紀子 : 2 時間 * 浦 美恵子 : 2 時間
単位数 (時間数)	1(45)テスト含む	配当年次	3
科目の概要	看護の現場は、決められた時間内に複数の対象へ看護サービスを提供することが求められ、ケアの優先度を判断し、安全性、効率性を考慮しながらチームの一員として動くことのできる実践能力が必要となる。本科目はそのような看護の現場への適応を目指す科目である。そのため臨床でよく遭遇する場面を提示し、課題を解決していく演習を行い、看護技術の総合的な評価を行う。また、これからの看護を見据え、最新のトピックスを取り入れながら、現場の課題への対応について考える授業を行う。		
到達目標	1.複数の患者を受け持ち、ケアの優先順位を考え1日の行動計画を立案することができる。 2.予期しない対象の反応や突発的な事態、時間の切迫等の臨床で起こる現象の中で、根拠をもとに優先順位を決定することができる。 3.患者に 24 時間看護を提供するための仕組みについて理解する。 4.専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続ける姿勢を身につける。		
授業方法	講義及び演習(グループ演習含む)		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	チーム医療と多職種連携 I ①	講義
	2	チーム医療と多職種連携 I ②NST の活動の実際と看護の役割	講義
	3	チーム医療と多職種連携 I ③医療連携室の概要と役割	演習
	4	チーム医療と多職種連携 I ④タスクシェア・タスクシフト	講義
	5	チーム医療と多職種連携 I ⑤チームワークとコミュニケーション	講義
	6	様々な状況下の判断① 優先順位の判断	講義・演習
	7～11	様々な状況下の判断② 実演・シミュレーションによる状況判断トレーニング	演習
	12	これからの医療の課題① 地域における地域保健活動	講義
	13	チーム医療の多職種連携 II ① 一日の業務の組み立て	講義
	14	チーム医療の多職種連携 II ②交代制勤務による看護提供	講義
	15～18	チーム医療の多職種連携 II ③他の医療職学生との合同授業	演習
	19	これからの医療課題 人生の最終段階における医療と看護(ACP)	講義・演習
20～22	実技試験	実技試験	
23	単位認定試験		
成績評価の方法	1. 演習記録・多重課題トレーニングレポート 2. 課題レポート3. 技術演習課題 4. 実技試験リフレクションレポート 5. 単位認定試験など評価の割合は講義中に説明します。		
履修上のアドバイス	主体的な学習や真剣な態度での実演が、学習の質を左右します。		
テキスト	「新体系看護学全書 統合分野 看護実践マネジメント/ 医療安全」メヂカルフレンド社		
参考文献	必要時提示します。		

*実務経験のある教員

臨地実習

科目名	母性看護学実習	担当講師	*山崎香代子
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3年次
科目の概要	母性看護では、女性の一生を通じた母性の健康の保持、増進を目指した看護を基盤として、次世代育成を目指す。この実習では、その中で周産期を対象とした母性の健康の保持、増進への看護について学ぶ。机上の学習を振り返り、対象の状態をアセスメントし、ウェルネスや問題志向型の問題を考え、対象に必要な看護を考えさせる。また、保健指導を行うことが、対象にとっての健康の保持増進に繋がることを学ぶ。また、生命誕生の場でもあるために、生命を尊厳できる態度を学ぶ。		
到達目標	周産期にある対象とその家族の特徴を理解し、周産期の対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。		
授業計画	実習方法		
	<p>1. 病棟・外来実習 : 75 時間</p> <p>1) 1組の褥婦と新生児を受け持ち看護過程の展開をする。新生児の日常生活の援助や退院後の褥婦と新生児への保健指導の見学をする。</p> <p>2) 主にハイリスク妊産褥婦の経過について学ぶ。</p> <p>3) 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受け、行動計画に沿って実施する。</p> <p>4) 毎日、テーマを決定しカンファレンスを行う。</p> <p>5) 妊婦健康診査を受ける妊婦を1人受け持ち、妊娠経過が正常か否かを判断し保健指導を見学する。</p> <p>2. 診療所実習 : 12 時間</p> <p>1) いずれかの1施設で実習を行う。</p> <p>2) 診療所における妊産褥婦、新生児の看護の見学をする。</p> <p>3) 主にローリスク妊産褥婦の経過について学ぶ。</p> <p>3. 実習まとめ : 3 時間</p> <p>1) すべての臨地実習が終了後、学校で実習まとめを行い、学びを共有する。</p>		
成績評価の方法	実習評価表を用いて100点満点で評価する。		
履修上のアドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

*実務経験のある教員

科目名	小児看護学実習	担当講師	*西山美奈子
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3年次
科目の概要	<p>小児看護学は、小児看護の概念と小児の特性を理解し、小児の成長発達に応じた養護と、健康のあらゆるレベルにある小児及びその家族に対して援助をおこなう為に基礎的能力を養うことを目的としている。近年、未曾有の少子時代を迎え、子どもの健康保持と健全育成はこれまで以上に大きな課題となっている。生活様式の変化と共に慢性疾患が増加、また医療の進歩や高度化により疾病の予防や不治の病からの救命と健康回復を導く一方、侵襲的な処置や治療環境によってストレスを強めたり、長期の治療を要する病をもちながら生きる子どもを増加させている現状がある。本実習は、既習の知識を統合し、日々成長発達する小児を助け、健康な生活を送れるよう援助するために看護を実践しながら学ぶ。</p>		
到達目標	子どもとその家族を理解し、健康の段階に応じた看護を実践できるための基礎的能力を養う。		
授業計画	実習方法		
	<p>1. 保育園実習 : 15 時間 1) 乳児、幼児クラスの保育に参加し見学する。</p> <p>2. 病棟実習 : 72 時間 1) 患児一人を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受ける。 3) 行動計画に沿って実施する。 4) 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受け、行動計画に沿って実施する。 5) 毎日、テーマを決定しカンファレンスを行う。</p> <p>3. 小児科外来実習 : 3 時間 1) 小児科外来看護師と共に行動し、健康障害のある子どもと家族への援助の方法を学ぶ。</p>		
成績評価の方法	実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。		
履修上のアドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

*実務経験のある教員

科目名	成人看護学実習	担当講師	* 山口真由美
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3 年次
科目の概要	<p>成人期は、青年期、壮年期、向老期に至る人生の大半を占めており、社会的役割責任を果たす意義深い時期である。家庭においては父親、母親として子どもを育て、家庭を管理していく役割をもつ。身体的には成熟し、少しずつ衰え老化現象が始まる。それに伴い生活習慣の影響が疾病に移行し、発症しやすくなる時期でもある。成人看護学実習は、手術を受ける対象と家族の危機的状態における看護を学ぶ。そのため、成人期の対象とその家族は、手術により役割を継続することが困難となりその日常生活は身体的・心理的・社会的に苦しいものになると考えられる。このような対象や家族が早期に役割を遂行し生活を取り戻す事ができるように支援することは看護の重要な役割であり本実習の意義と考える。</p>		
到達目標	<p>成人各期にある対象とその家族を多面的、総合的に理解するとともに、対象とその家族の疾病および機能障害の特性に応じた個別的な看護が実践できる基礎的能力を養う。さらに、それらの体験を通して、学生個々の看護観を培い、看護者及び人間としての成長・発達を促進する。</p>		
授業計画	実習方法		
	<p>1. 病棟実習 : 83 時間</p> <p>1) 患者を受持ち看護過程を展開する。</p> <p>2) 実習 1 日目に手術室オリエンテーションを受け、受け持ち対象の手術時、見学実習を行う。</p> <p>3) 実習 1 日目、学内にて術直後～1 日目の観察及び術後の援助に必要な技術のシミュレーション学習を行う。</p> <p>4) 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受け、行動計画に沿って実施する。</p> <p>5) 毎日、テーマを決定しカンファレンスを行う。</p> <p>6) 日々の実践を振り替える。</p> <p>2. がん治療センター実習 : 4 時間</p> <p>1) 見学実習を行う。</p> <p>3. 救急外来実習 : 3 時間</p> <p>1) 見学実習を行う。</p>		
成績評価の方法	実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。		
履修上のアドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

* 実務経験のある教員

科目名	老年看護学実習	担当講師	* 中村加代子
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3 年次
科目の概要	<p>老年看護学実習では、多様な生活史、長い人生で培った価値観、信念と個別性をもった高齢者を対象とし、既習の知識・技術・態度を活用し、あらゆる健康段階にある高齢者に科学的根拠に基づいた看護を実践できることをねらいとする。</p> <p>高齢者の生活を支える保健・医療・福祉の連携の重要性と看護の役割・機能について学び、高齢者を支えるサポートシステムについて理解を深める。また、高齢者にとっての生活やQOLの向上、について学び、高齢者の理解を深め老年観を養う。</p>		
到達目標	<p>老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルに対応した看護が実践できる基礎的能力を養う。</p>		
授業計画	実習方法		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を受持ち看護過程を展開する。 2. 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受け、行動計画に沿って実施する。 3. 毎日、テーマを決定しカンファレンスを行う。 4. 日々の実践を振り替える。 		
成績評価の方法	<p>実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。</p>		
履修上のアドバイス	<p>実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 全巻 医学書院</p>		
参考文献	<p>随時紹介します。</p>		

* 実務経験のある教員

科目名	精神看護学実習	担当講師	*山口奈津子
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3年次
科目の概要	<p>精神看護学の対象は、精神に障害をもつ人の看護だけでなく、あらゆる発達段階にある人々が対象となる。社会で生活する人々のこころの健康問題について理解し、その人らしさを保ちながら生活を営み、精神の健康をめざして自己実現がなされるよう援助していくことが重要である。精神看護学実習では、精神に障害をもつ対象への援助、日常生活援助を通して対象理解を深め、精神の健康増進、疾病の予防および回復過程への援助、対人関係の援助を学ぶ。そして、既習した知識をもとに、なぜ今それが行われているのか根拠に基づいて考え、精神看護の理解を深める。また、患者—看護者関係における自己を理解し、自己洞察する能力を養う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害をもつ対象の特徴を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う。 2. 対象との関わりを通して自分の傾向を知り、自己を見つめる能力を養う。 		
授業計画	実習方法		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を受持ち看護過程を展開する。 2. 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受け、行動計画に沿って実施する。 3. 毎日、テーマを決定しカンファレンスを行う。 4. 全ての臨地実習が終了した後、学内にて以下の共有を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①精神障害者の社会復帰に向けた支援及び看護職の役割 ②学びや体験 		
成績評価の方法	実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。		
履修上のアドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

*実務経験のある教員

科目名	在宅看護論実習	担当講師	*平晴奈
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3年次
科目の概要	<p>在宅看護論の対象は、様々な年齢、健康レベルにあり疾病を抱え在宅で療養する人々とその家族である。そのため、各看護学における学習を土台に、在宅療養者の自立・自律を促し、生活の質(QOL)を維持・向上させるための看護を学ぶ。</p> <p>実習においては、さまざまな生活の場面に触れ、在宅で療養する対象の生活と看護援助の実際および多職種との協働・連携を知り、在宅での看護が提供できる基礎的能力を身につける。また、その人らしく過ごすために必要な社会資源とその活用について学ぶ。</p>		
到達目標	生活しながら在宅で療養する人々とその家族の特徴を理解し、現状の生活を踏まえた看護援助が実践できる基礎的能力を養う。		
授業計画	実習方法		
	<p>1. 訪問看護ステーション実習 :52.5 時間</p> <p>1)受け持ち対象の看護過程の展開を行う。</p> <p>2)在宅訪問に同行し、看護の実践や見学を行う。</p> <p>2. 通所施設実習 :7 時間</p> <p>1)1日通所施設で、見学実習を行う。</p> <p>3. 介護老人保健施設実習 :14 時間</p> <p>1)見学実習を行う。</p> <p>4. 介護医療院実習 :14 時間</p> <p>1)2日間、看護師に同行し見学実習を行う。</p> <p>5. 学内合同カンファレンス :2.5 時間</p> <p>1)すべての臨地実習が終了後、学内にて学びを共有する。</p>		
成績評価の方法	実習評価表を用いて100点満点で評価する。		
履修上のアドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

*実務経験のある教員

科目名	統合実習	担当講師	*山口真由美*中村加代子*西山美奈子 *山口奈津子*平晴奈*山崎香代子
単位数 (時間数)	2 (90)	配当年次	3年次
科目の概要	本実習は、本校教育課程最後の科目として学習の総仕上げの意味をもつ。決められた時間内に複数の対象への看護サービスを行うことが求められる看護の現場で、ケアの優先度を判断し、安全性、効率性を考慮しながらチームの一員として動くことのできる実践能力を身につけることをめざす。また、地域における保健医療福祉活動の実際を学ぶ。		
到達目標	あらゆる場において行われる看護実践を体験することにより、保健・医療・福祉の連携を考え、看護チームの一員として実践できる基礎的能力を身につける。		
授業計画	実習方法		
	<p>1. 統合Ⅰ 保健医療福祉の連携実習 : 8時間 各施設での講義により地域における保健医療福祉活動の実際を学ぶ。</p> <p>1) 長崎県県央保健所 : 3時間 ①諫早市における地域保健活動の実際を理解</p> <p>2) 諫早市在宅医療介護連携支援センター : 3時間 ①諫早市における地域包括支援システムの現状の理解 ②地域包括支援センターの役割と実際を理解 ③在宅医療と介護の連携事業の実際を理解</p> <p>3) 子育て世代包括支援センター : 2時間 ①諫早市の母子保健事業の実際を理解 ②子育て世代包括支援事業について ③子育て世代包括支援センター(母子健康包括支援センター)の役割と実際</p> <p>2. 統合Ⅱ 病棟実習 : 82時間(学内実習まとめ2時間を含む) 看護師の同行や複数患者を受持ち看護の実践や見学を行う。</p> <p>1) 複数受け持ち実習 ①優先順位の理解</p> <p>2) リーダー同行実習 ①看護チームの理解</p> <p>3) 管理者同行実習 ①組織及び看護管理の理解</p> <p>4) 夜間実習・変則勤務帯実習 ①患者の1日の生活と生活を支える看護の理解</p>		
成績評価の方法	実習評価表を用いて100点満点で評価する。		
履修上の アドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

*実務経験のある教員

